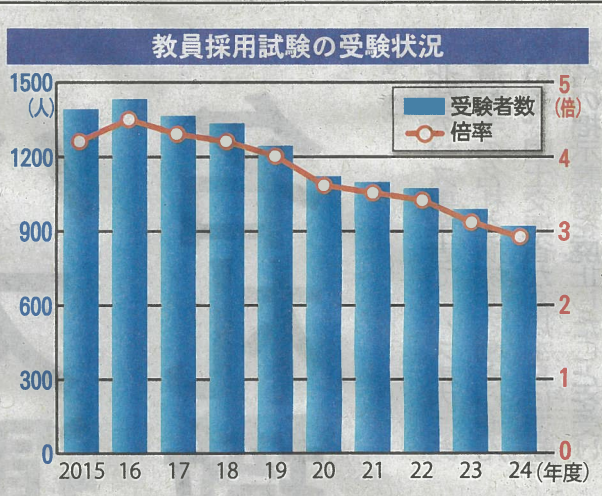
学生は多忙敬遠 質の担



石川」の足元を支えてきた教育現場の地盤沈下が現実味を帯びる。

「今どきの学生には、学校が魅力的な職場に映っていない」。27日、県庁で試験結果の概要説明に伝え、受験者増を目指す。担当者は「現場としては勤務環境の改善を続け、教職の魅力を地道に伝えていくしかない」とした。

受験者921人 採用は14年連続300人超

来年度県教員採用試験の受験者は921人で、前年度より68人減った。

第2次ベビーブーム世代が入学した昭和50年代に大量採用された教員の退職に対応するため、合格者は14年連続で300人超となった。内訳は男性143人、女性172人で、県内出身者は262人と全体の83・2%を占めた。新卒者は180人だった。

校種別では小学校が141人（倍率2・2倍）、中高136人（3・5倍）、特別支援28人（1・9倍）、養護教諭10人（7・3倍）。

前年度から実施している小学校の「大学推薦」枠では20人を採用した。栄養教諭は一般選考と任用替え試験で計6人を採った。

今回初めて実施した大学3年生対象の特別選考には、69人が受験し32人が基準に到達した。32人は4年次の試験で筆記や実技試験が免除され、面接・模擬授業のみとなる。

残業代なしも影響

教員の勤務環境改善のため、県教委は18年度から、時間外勤務を減らす取り組みを集中的に実施し基づき、月給の4%相当の「教職調整額」が支払われる仕組みで、長時間労働の温床との指摘がある。中教審が改善へ議論を進めている。

度3・4倍、23年度3・1倍と低下が続いていた。

隣県も同様の傾向にあり、富山県の合格倍率は2・3倍、29日に合格発表する福井県は出願者の倍率が2・75倍といずれも3倍を下回っている。

全国的な倍率低下の背景には、多忙、過度な保護者対応といった教員の勤務環境の悪さが、広く知られるようになったことがある。少子化で大学生の総数自体が減る中、石川県は大量退職を見越して300人超の採用を続けているこ とも倍率低下の一因という。

国交部会長に佐々木氏

自民党、あす正式決定

佐々木紀氏

自民党の佐々木紀衆院議員（48）＝石川2区、4期＝が党国土交通部会長に内定したことが27日、分かった。29日の総務会で正式決定する。国交省が所管する法案や予算の党内審査を取りまとめるポストで、北陸新幹線敦賀―新大阪間の整備など、地元の重要施策にも関与する立場となる。

国交部会は、道路や鉄道、港湾、河川、観光など、議論する分野が多岐にわたる。全てのまとめ役となる部会長は、調整力や発信力が問われる。

部会長は現在、衆院議員では主に4期が務めており、副大臣経験後に就くケースが多い。県選出国会議員の部会長就任は、2017年に環境部会長に就いた北村茂男氏以来となる。

佐々木氏は19年に国交政務官を務め、与党の北陸新幹線敦賀―新大阪間整備委員会にも所属する。今回の内閣改造では国交副大臣就任を希望し、地元からも期待されていたため、国交以外の複数省庁からの副大臣ポストの打診を「いずれも希望や専門分野ではなかった」として固辞した。

財務省の経験、人脈生かす

宮本参院議員が来社

財務政務官を退任した宮本周司参院議員＝写真＝は27日、北國新聞社を訪れ、飛田秀一会長と懇談した。

宮本氏は「予算を要望される側の立場を経験し、財務省のやり方、考え方を理解できた」と強調。1年1カ月の在任期間で歴代最多の163件の陳情を受けたとし、「今後は省内の人脈も生かし、県や県内産業界などの力になりたい」と話した。

西田氏は農林部会や国土交通部会の副部会長を経て、9月まで国交政務官を務めていた。今後は東京電力福島第1原発の処理水の海洋放出に関する風評被害対策の議論にも関わる。

佐々木氏は北國新聞社の取材に「北陸新幹線敦賀以西の早期着工に向け、汗を流したい」と話した。

水産副部会長 西田氏が内定

自民党の西田昭二衆院議員（54）＝写真、石川3区、2期＝は、党水産部会副部会長に内定した。能登半島沖の好漁場「大和堆」周辺で横行する外国漁船の違法操業などを担当する部会で、西田氏は「切迫した課題を改善し、漁業者の力になりたい」と話した。

西田氏は農林部会や国土交通部会の副部会長を経て、9月まで国交政務官を務めていた。今後は東京電力福島第1原発の処理水の海洋放出に関する風評被害対策の議論にも関わる。

七尾高、県立大など 新設の教育部門大賞 エコデザイン賞

県は27日までに、脱炭素や環境保全に役立つ事業を表彰する「いしかわエコデザイン賞」の受賞事業を決めた。新設の「教育・社会活動」の部門で最も優れた大賞には、河川内の魚の排せつ物などを調べることで生息している魚類を調査する七尾高や県立大、環境公害研究センター（金沢市）の取り組みが選ばれた。

このほかの大賞は、製品が食器の不良品をリン酸肥料に活用するニッコー（白山市）の「BONEART HⓇ（ボナース）」、サービスがフルタニランバー（金沢市）の「能登ヒバ楽器プロジェクトーATENOTE―」に決まった。

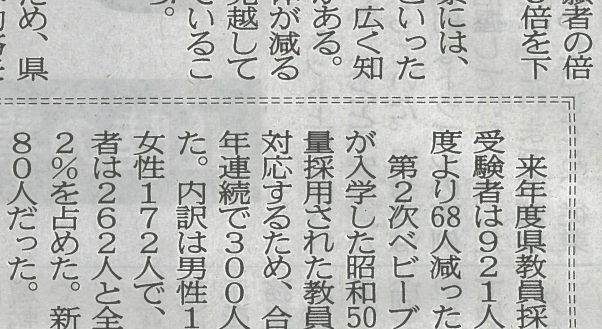
10月10日に金沢市の県地場産業振興センターで表彰式を行う。このほかの主な受賞団体は次の通り。

◇製品▽金賞 谷口▽銀賞 金森合金▽銅賞 穴水高、チーム能登喰いしん坊◇サービス▽金賞 マルエー▽銀賞 こはく▽銅賞 山崎設備設計◇教育・社会活動▽金賞 わこころ（金大学生チーム）▽銀賞 翠星高▽銅賞 かほく市七塚小

障害者対象の採用 行政職6.6倍に低下

県人事委員会は27日、障害者を対象とする来春採用の県職員試験の申し込み状況を発表し、行政職5人程度の採用予定数に対して33人が応募した。倍率は6・6倍で、3人の枠に25人が申し込んだ前年の8・3倍を下回った。

小中学校の事務職員では、採用予定1人程度に8人が応募し、倍率は8・0倍だった。11月下旬の2次試験を経て12月中旬に最終合格者が発表される。


集団行動の指導を受ける生徒＝白山市の鶴来高

学び、4列横隊で歩きながら交差する練習も行った。日体大OBの本田祐樹鶴来高教諭も一緒に指導した。

10月29～31日に石川県内で街頭演説することも確認した。盛本芳久代表は冒頭あいさつで内閣改造・自民党役員人事を批判し、「いつ選挙が行われるか分からないが、しっかり準備したい」と話した。

◆青年海外協力隊が帰国報告

国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊としてベトナムに派遣された金沢市の山本岳人さん（41）が27日、県庁を訪れ、帰国報告した。

2021年9月から2年間、現地の放送局で番組制作に携わり、交流サイト（SNS）を使って現地文化の発信も行った。竹内政則観光戦略推進部長は経験を生かした活躍を期待した。山本さんは同市役所、県青年海外協力隊を支援する会も訪れた。

知事日誌（27日）

【午前】8時55分、登庁後知事室。

【午後】0時15分、県庁発。1時、鶴来高で日体大との連携授業を視察。3時、同所発。31分、県庁着後知事室。5時45分、退庁。

知事・市町長日程（28日）

馳知事 17・50 「チームラボ金沢城 光の祭」オープニングセレモニー（金沢城公園）

村山金沢市長 姉妹都市交流事業で仏ナンシー市

田村白山市長 行政用務で京都府

宮橋小松市長 11・15 全員協議会（庁内）、13・30 市議会本会議（議場）

宮元加賀市長 所用で市外

粟野々市市長 10・00 IRいしかわ鉄道取締役会（金沢市）、14・00 市議会本会議（議場）

茶谷七尾市長 13・30 交通安全

七鹿のつどい（中能登町）

井出能美市長 10・00 IRいしかわ鉄道第3回取締役会（金沢市）

油野かほく市長 庁内執務

坂口輪島市長 13・30 市観光まちづくりシンポジウム（市文化会館）、15・30 奥能登広域圏事務組合議会協議会（消防本部）、16・00 同議員定例会（同）

岸羽咋市長 羽咋郡市広域圏事務組合議会行政視察研修で三重県

泉谷珠洲市長 16・00 奥能登広域圏事務組合議会定例会（輪島市）

矢田津幡町長 13・30 津幡地区敬老会（シグナス）、15・30 小矢部市・津幡町県境合同街頭キャンペーン（同市）、19・00 特別国民体育大会出場選手監督激励会（庁内）

川口内灘町長 14・00 内灘町福祉会理事会（夕陽ケ丘苑）

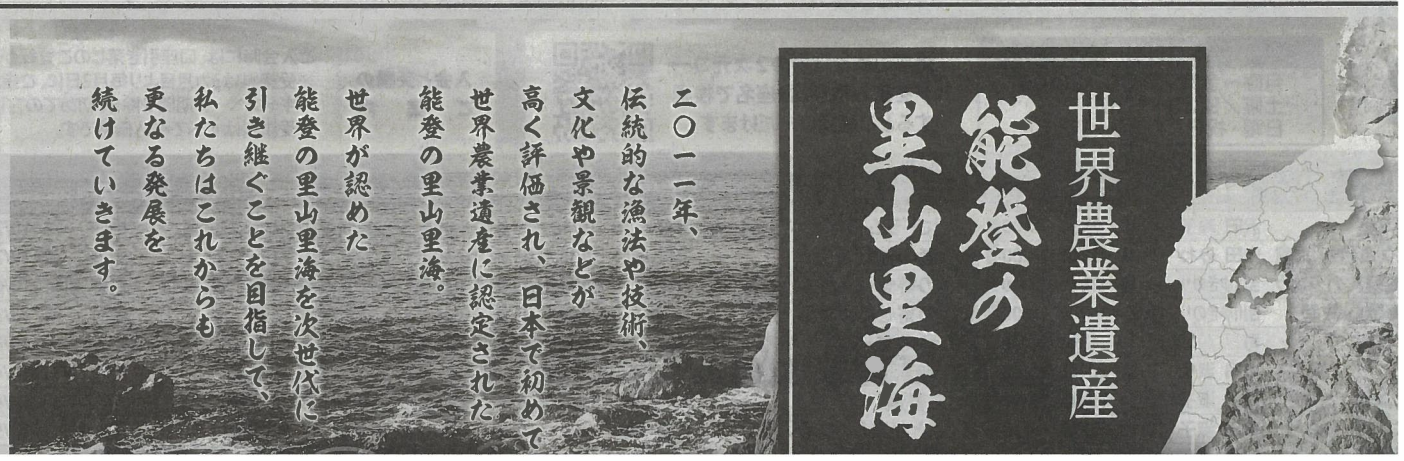
小泉志賀町長 羽咋郡市広域圏事務組合議会行政視察研修で三重県

宮下中能登町長 13・30 交通安全七鹿のつどい（ラピア鹿島）

大森能登町長 9・00 課長会議（庁内）、16・00 奥能登広域圏事務組合議会定例会（輪島市）

實達宝達志水町長 羽咋郡市広域圏事務組合議会行政視察研修で三重県

吉村穴水町長 13・30 通話録音警告機の訪問設置活動（川島）、16・00 奥能登広域圏事務組合議会定例会（輪島市）

前川北町長 庁内執務

能登の里山里海を次世代へ――
私たちは能登の更なる発展を願っています。